

2025年度実績報告と2026年度からの活動計画

CO₂の回収・利活用に向けた研究会【第4回】

2026年3月25日

資料



目次

2025年度の実績報告	3
-------------	---

2026年度からの活動計画	8
---------------	---

今年度は都内CO₂回収・利活用によるサプライチェーン構築を目指し研究会を実施 来年度はFS事業と研究会を通じ、2030年頃の産業間連携の創出を推進していく

本年度報告と来年度の取り組みサマリー

本年度の実施内容

- 都内におけるCO₂の排出源から回収し、そのCO₂を利活用するようなCO₂サプライチェーンを構築し、新たな産業間連携の創出及びCO₂削減へ貢献するために本研究会を発足
- 本研究会参加者との意見交換を進め、課題・意見を集約するために以下実施
 - CO₂の回収・利活用に向けた研究会：計3回
 - CO₂の回収・利活用に向けた分科会：計1回
 - 本研究会参加者へのヒアリング

来年度からの取組（予定） ※今後都議会での議決を経て決定

1. CO₂サプライチェーン構築に係る実現可能性調査*1

- 「①都指定施設（清掃工場）を起点とするもの」および「②都指定施設以外を起点とするもの」の2類型を対象に、各拠点からCO₂を回収し、都内外を問わずCO₂の利活用を行い、最終的に消費者または需要家による利用に至るまでのCO₂サプライチェーン構築に係る実現可能性調査（FS）を2026年度・2027年度の2か年度で実施予定
- 各類型につきそれぞれ2件程度を採択予定とし、①については2年間で計最大3億円、②については2年間で計最大1.5億円の経費負担を行う。併せて、進捗管理や情報提供等の支援を実施予定

2. 2026年度CO₂の回収・利活用に向けた研究会

- 今年度と同様に、CO₂回収・利活用事業に関わる事業者を参集し、都としてのカーボンリサイクルの目指す方向性および、それに向けた課題、施策等について、共有・討議を行う

*1 本資料では便宜上『FS事業』と称す

*2 CR：Carbon Recycling（カーボンリサイクル）の略称。排出CO₂を資源として回収し、製品に再利用する取組

2025年度の実績報告

東京都におけるCO₂サプライチェーン構築を目指し、本研究会を設立 第1回ではカーボンリサイクルの実装化に向けた課題や方策検討を実施した

第1回研究会（2025年6月27日）



都の脱炭素目標の達成に寄与するため、CO₂の排出・回収・輸送・利活用に関わる各事業者が参画する本研究会を設立し、東京都としてのCO₂サプライチェーン構築を目指す上での障壁となる課題や有効な方策について検討

- ✓ サプライチェーン構築時の想定され得る課題
- ✓ 課題に対して必要となる方策



当日頂戴したコメント

- “
- **東京都モデルとしての検討推進：**
様々な排出源や回収・利活用技術がある中で、東京都モデルとしての役割、優先順位の明確化やエネルギー・技術の連携の検討が重要
 - **供給体制構築に対する課題：**
設備導入に関わる金銭的補助や要件緩和が不可欠
 - **需要創出に向けた課題：**
公共調達や規制などからのアプローチを起点とした需要喚起に向けた取組が必要
- ”

第2回では国内外の支援策の整理を踏まえ、都に適した実効性のあるCO₂サプライチェーンの在り方と、CO₂供給体制の構築を支える都施策の方向性を議論した

第2回研究会（2025年9月17日）



第1回研究会にて、技術連携性やCO₂供給体制構築に向けた方策の必要性についてコメントいただいた。そのため、第2回では都に実効性のあるCO₂サプライチェーンの在り方・支援スキームに焦点を当て検討

- ✓ 東京都に適した実効性のあるCO₂サプライチェーンの在り方検討
- ✓ 供給体制構築に向けた都施策の方向性

当日頂戴したコメント

- “
- **各社技術・特性のマッチング：**
研究会を通して、各事業者が持つ具体技術・特性のマッチングが重要に
 - **需要創出からのアプローチ：**
課題に対応する方策として、供給体制構築に留まらずに、需要拡大を見据えた導入規制等の整備も必要に
- ”



各事業者の技術・特性に基づき接続の具体的な検討を行うため、各社のサプライチェーン構想や連携ニーズ、課題を共有しマッチングを図る機会として分科会を実施した

第1回分科会（2025年11月28日）



「各事業者が持つ具体技術・特性のマッチングが重要」との第2回コメントを受けて、研究会に参加している事業者から、自社技術を起点としたCO₂サプライチェーン構想案を共有し、各社間のマッチングを促進

- ✓ CO₂回収・利活用に係るや技術・取組を踏まえたサプライチェーン構想案
- ✓ 自社技術の提供可能範囲と補完すべき他社技術
- ✓ 事業推進にあたり考え得る課題、その課題に対する対応策



当日頂戴したコメント

- “
- **製品利用者の重要性：**
サプライチェーン形成には製品利用者（オフテイカー）の存在が不可欠であり、技術開拓にあたっては、都内だけに閉ざさない広い視野を持って検討することが重要
 - **東京都モデルとして目指す方向性：**
コストや敷地制約等の課題を踏まえ、一定規模以上での導入促進を目的とするのか、あるいは東京都という固有の環境下においてフラグシップ的に事業組成を検討する取組と位置付けるのか、その考え方の明確化が必要に
- ”

第3回では、分科会での各社のサプライチェーン構想案や連携ニーズを踏まえ、来年度以降に検証すべき事項や進め方、需要創出に向けた施策について議論した

第3回研究会（2026年1月16日）



サプライチェーン構築の具体的検討に必要な事項を明確化するとともに、供給体制の構築に加え、需要創出に向けた施策についても整理

- ✓ CO₂サプライチェーン構築に向けた来年度以降の検証事項・進め方
- ✓ 需要創出を後押しする施策検討

当日頂戴したコメント

- “ □ **CO₂サプライチェーン構築の検証観点：**
今後検討するにあたり、以下観点の検証が重要に
- 事業者は2030年以降に想定される設備稼働後のロードマップも示し、今後どのように事業を発展すべきかを示していくべき
 - 国と連携可能な部分は連携しつつ、都としての独自性をどのように打ち出していくかについての検討が必要
 - CO₂削減量の算定手法についての検討が必要
- **需要創出に向けた検討事項：**
需要創出を後押しする施策検討を行うにあたり、都独自の対応や、消費者受容性/コスト高に係る検討が重要に”



2026年度からの活動計画

今年度研究会ではサプライチェーン構築に向けて来年度都が検討すべき事項を明確化した 来年度はFS事業と研究会での検討で産業間連携によるカーボンリサイクルを進めていく

次年度の検討事項

東京都モデルの検討

大都市特有の視点を考慮した
創意工夫のあるサプライチェーン

規格・認定の整備

現場利用に向けたJIS規格の整備

バリューチェーン構築

事業間の価値創出の観点が重要に

環境価値の取扱い

CO₂削減量の算定手法などの整理

技術競争力の把握

将来的にコスト競争力を維持するために
必要な方策の検討

検討事項

需要喚起に向けた方策

公共調達や導入規制の導入

設備導入・運用によるコスト

設備新設に伴うコストの算定

規格・認定の整備

現場利用に向けたJIS規格の整備

都が今後取り組むべき事項

都で実施する意義のあるカーボンリサイクルの実装化

- 今まで連携がないような事業者が協働し合い、**CO₂を回収・有効活用するカーボンリサイクルを都起点で新規に組成**
- モノ・カネ・環境価値や技術連携を踏まえ、**供給体制構築から消費者に至るまでの事業検討が必要**



供給・需要両面での都支援の在り方の検討

- 産業間連携を創出し、自走化を最終目標とするが、現時点では多く課題が残る
- 都として、産業組成の障壁となる課題を特定し、**カーボンリサイクルの社会実装に向けて必要な支援の有無・具体内容を見極めていきたい**

2030年頃に都内CO₂回収・利活用産業の構築を目指し、①FS事業で事業者連携の可能性を検証し、②その成果を基に研究会で都としての支援策を討議したい

“FS事業”と“研究会”を両軸にした推進（現時点の予定）

都で実施する意義のあるカーボンリサイクルの実装化

① CO₂サプライチェーン構築に係る実現可能性調査*1

新たな産業間連携の創出、社会実装化の実現可能性及び将来的なCO₂削減への貢献効果等を検証

- 都内排出施設からCO₂を回収し、都内外問わずにCO₂を利活用するような事業を対象
- 2026年度・2027年度の2か年度にかけ、**設計・設置から最終的な消費者または需要家の利用に至る社会実装を見据えた実現可能性調査**を行う
- また、FS事業採択事業者間での課題共有や必要施策の提言など実施する

2026年度春ごろから応募する採択事業者

目的

概要

関与者

供給・需要両面での都支援の在り方の検討

② 2026年度CO₂の回収・利活用に向けた研究会

FS事業に加えて、都内におけるカーボンリサイクルを幅広く推進するための課題・施策等について討議

- FS事業の成果をはじめ、各事業者の取組等を共有することで、**都内におけるカーボンリサイクルの情報共有し事業者間連携を促進**する場として開催
- FS事業で得られた知見を踏まえ、都におけるCO₂サプライチェーン推進上の事業課題を共有し今後の施策等を検討
（必要に応じて、すでに進行しているFS事業に新たなプレイヤーの参画を募ることも視野に）

CO₂回収・利活用事業に関わる事業者
（FS事業採択事業者に限定せず幅広く参加可能）

東京都内で排出されるCO₂を資源として回収・利活用するカーボンリサイクルの実現に向けて
実現可能性の検討と事業者間連携の促進を両軸とした推進を図っていく

*1本資料では便宜上『FS事業』と称す

①都指定施設、②都指定施設以外の都内排出施設を起点とした事業コースをそれぞれ2件程度採択を行い、2か年度かけて都CO₂サプライチェーンの実現可能性調査を行う

“FS事業”の概要（現時点での予定）

今後都議会での議決を経て決定

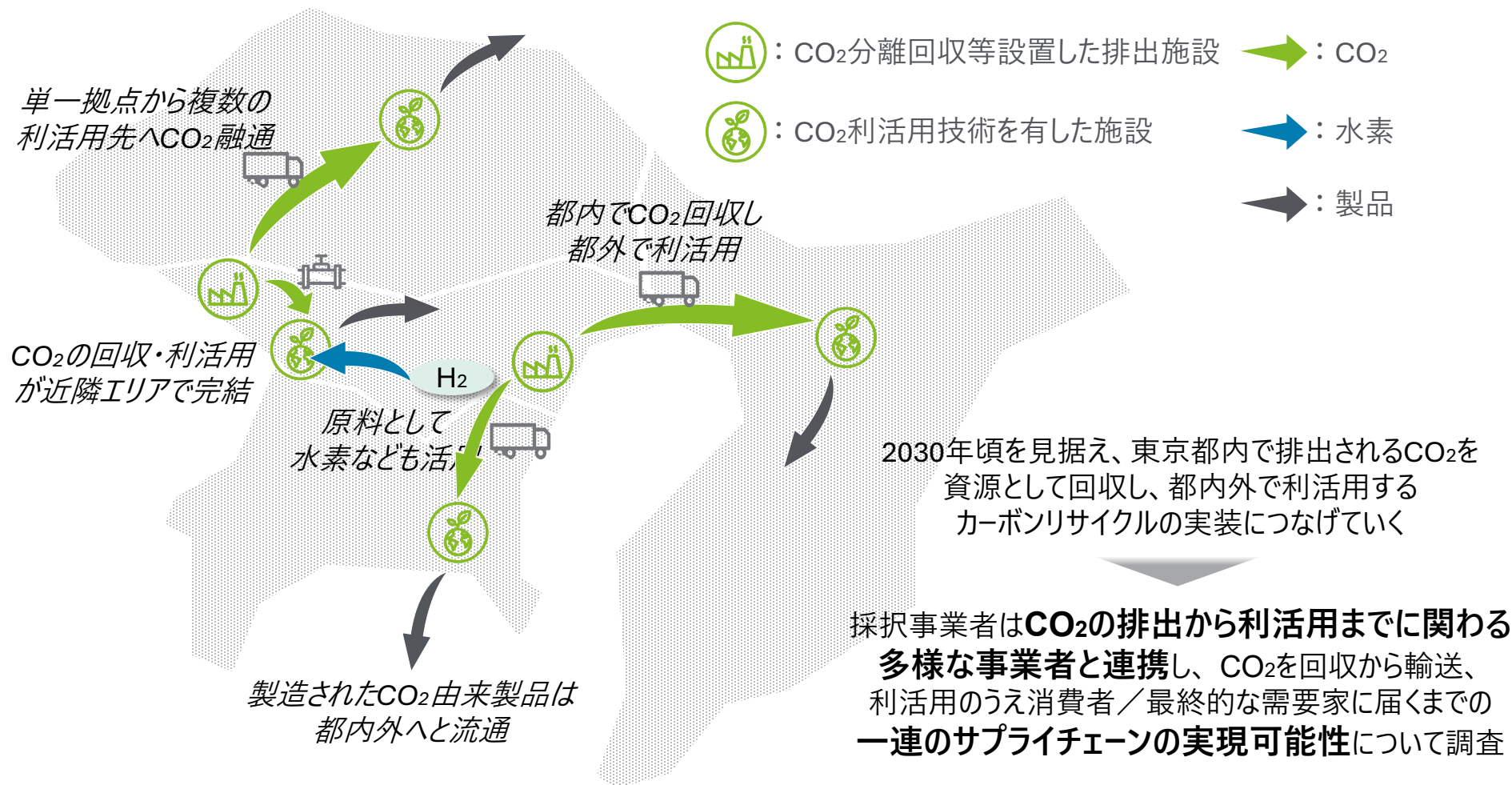
		①都指定施設（清掃工場）起点	②都指定施設以外の施設起点*1
公募 対象	公募 対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 排出施設：都指定施設（東京二十三区清掃一部事務組合が管理する清掃工場） ■ 回収・利活用：当該排出施設からの排ガスを回収し、都内外問わず利活用するような取組 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 排出施設：応募事業者が応募時に提案する都内にある排出施設 ■ 回収・利活用：当該排出施設からの排ガスを回収し、都内外問わず利活用するような取組
	採択件数	2件程度	2件程度
取組 内容	FS事業 検証内容	2030年頃の実装化を目指した際の供給体制構築や需要喚起などの実現可能性を調査	同左
	事業期間	2026～2027年度 （詳細な募集要領は今後公表）	同左
	経費負担 （上限） ※1件あたり	2026年度:1.5億円、2027年度:1.5億円	2026年度:0.5億円、2027年度:1億円
	支援内容 （その他）	FS事業の進捗管理や情報提供	同左

*1都内の排出施設であれば、民営又は公営施設いづれでも申請は可能とする。応募にあたっては、関係する双方の合意が得られていることを条件とする

都内排出CO₂を資源として回収し都内外での利活用を目指していくため、採択事業者はCO₂に関わる多様な事業者が連携するサプライチェーンの実現可能性を調査する

“FS事業”のポイント | CO₂サプライチェーンのイメージ

今後都議会での議決を経て決定



応募時においては、実施内容の幅広い検討と多くの事業者からの応募を可能とするため、複数の座組パターンでの応募受付を予定している

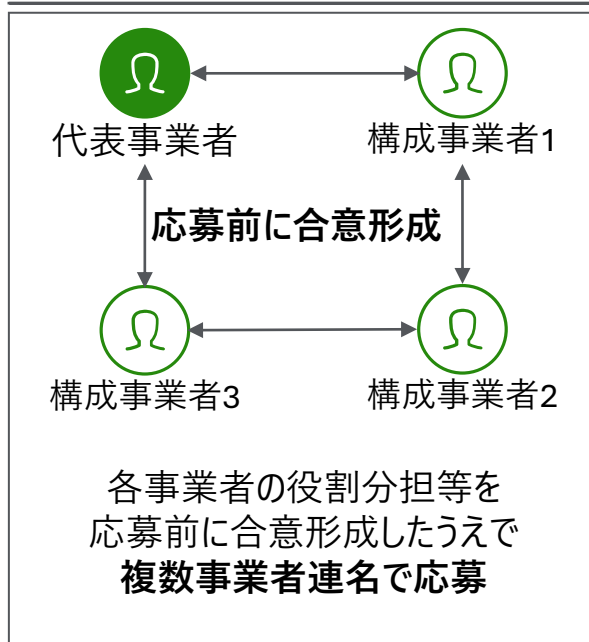
“FS事業”のポイント | 応募時の座組

今後都議会での議決を経て決定

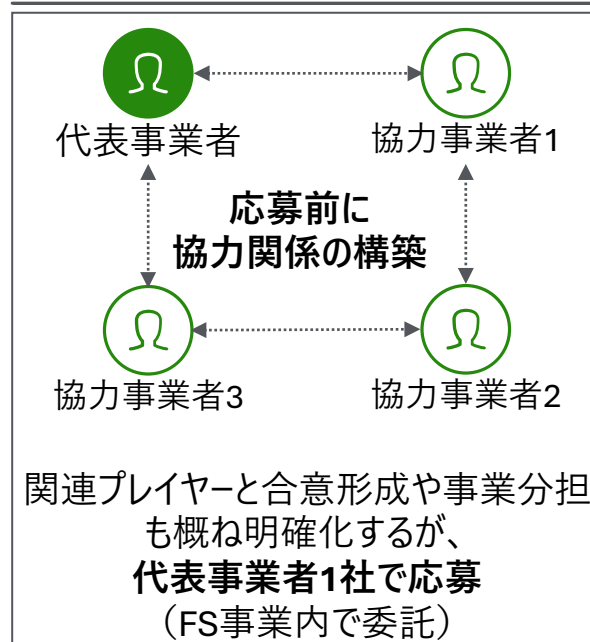
- FS事業の採択事業者はCO₂に関わる多様な事業者が連携するサプライチェーンの実現可能性を調査する
- 一方で、実施内容の幅広い検討と多くの事業者からの応募を可能とするため、応募時は複数事業者による連名での応募、代表事業者1社での応募、1社単独での応募といった多様な座組での応募を可能とする

応募時の座組パターンのイメージ

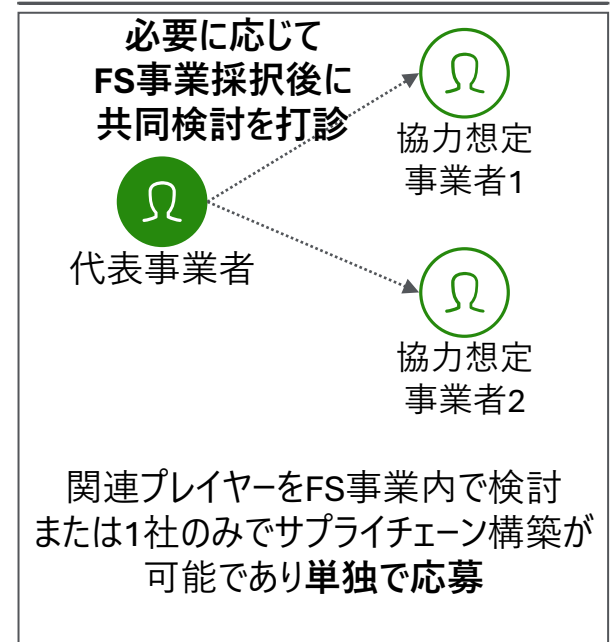
① 複数事業者合同での応募



② 合意形成はするが単独応募



③ 合意形成は無く単独応募



応募時においては、東京都モデルと言えるサプライチェーンを幅広く検討するため、技術の成熟度や利活用の用途を限定せず、多様なFS事業案の受付を予定している

“FS事業”のポイント | 技術

今後都議会での議決を経て決定

- 都は都内で排出したCO₂を再利用するカーボンリサイクルの「東京都モデル」の創出に向けてFS事業を実施し、必要となる方策を検討していく
- 多様な技術を検討の俎上に載せるため、応募時は対象技術や利活用の用途を限定せず、市場形成が十分に進んでいない分野も含めたFS事業案の応募を可能とする

技術成熟度

- 以下該当する技術であれば、現時点における応募技術の技術成熟度（TRL）は求めない
 - 2030年以降の社会実装化を見据え、来年度からFS事業で検討可能な技術
 - 東京都の都市特性を生かしたCO₂回収・利活用技術

CO₂利活用技術

- 本FS事業で想定する利活用技術の技術の一例は以下であるが、これに限定するものではない
 - 直接利用（液化炭酸ガスやドライアイス）
 - 化学品（汎用物質、含酸素化合物など）
 - 燃料（合成燃料や合成メタンなど）
 - 鉱物（コンクリートやセメント、炭酸塩など）
 - その他（植物工場など）

来年度、都のカーボンリサイクルの指針・課題を共有し、CO₂回収・利活用事業の構築を後押しすることを目的とした、研究会を年2回開催する予定である

CO₂の回収・利活用に向けた研究会スケジュール

今後都議会での議決を経て決定

	2025年												2026年												2027年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
研究会	2025年度第1回 (6月27日)			2025年度分科会 (11月28日)						2025年度第4回 (3月25日)																	
	◆			◆			◆			◆															◆		
	2025年度第2回 (9月17日)						2025年度第3回 (1月16日)															2026年度第1回 (9月ごろ)			2026年度第2回 (3月ごろ)		



2025年度研究会

- 目的：
 - 都内CO₂排出源から回収し、そのCO₂を利活用するようなCO₂サプライチェーン構築を目指し
 - 新たな産業間連携の創出及びCO₂削減へ貢献するために本研究会を発足



2026年度研究会（予定）

- 目的：
 - 都としてカーボンリサイクルを目指す方向性および、それに向けた課題を共有することによる、カーボンリサイクルに関する事業構築の後押し
 - CO₂サプライチェーン構築を考えている企業・他自治体への経験共有による、国全体としてのカーボンリサイクル推進への寄与
- アジェンダ：
 - 2030年以降都が目指すカーボンリサイクルの将来像
 - FS事業の成果共有と、進行中FS事業への参画に関する打診
- 参加者：
 - FS事業の採択に関わらず、CO₂回収・利活用に取り組む事業者